昨年12月、徳島県立二十一世紀館において「人権に関する児童生徒の作品」の表彰式および発表会・展示会が行われました。

# “人権尊重～ひと・いのち・ふれあい～”

# 平成28年度「人権に関する児童生徒の作品」

徳島の未来を担う子どもたちが「人権」と向き合い、自分なりに考えるきっかけをつくるため、あいぽーと徳島では「人権に関する児童生徒の作品」を毎年県内の児童生徒から募集しています。
意見発表に係る作文、作詩作曲、標語ポスターの3部門に、64,017点という数多くの応募があった中から、**知事賞を受賞した作品**を紹介します。

主催／徳島県・徳島県教育委員会・徳島県立人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）　後援／徳島県小学校長会／徳島県中学校長会／徳島県高等学校長協会／徳島県人権教育研究協議会

## 意見発表に係る作文部門　知事賞

### 一人の個人として

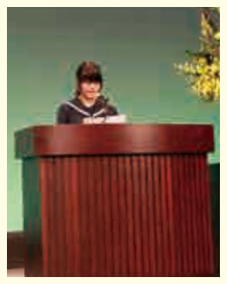
池田中学校　二年
三嶋　礼華

「国民性」という言葉があります。アメリカ人は陽気、ドイツ人は真面目など、様々な国民性があると言われます。私たち日本人は勤勉で大人しいという印象があるようですが、実際にはどうでしょうか。私たちの周りには明るい性格の人、のんびりとした性格の人など、様々な個性を持った人がたくさんいるのではないでしょうか。ですから、すべての日本人が大人しいというわけではないのです。このように、国民性ですべての国民を判断するのがおかしいことは簡単に気づくのですが、知らないうちに偏見を持って国民性をとらえることが起きています。少し前からインターネット上で「中国人は嫌いだ」という声を聞きます。確かにニュースなどでは、中国で起きた事件や、日本を訪れる中国人観光客の態度など、悪い情報しか入ってきません。しかし、それを中国の国民性に問題があるかのようにとらえ、一方的な情報だけで悪いイメージを持ち、中国人すべてを嫌いだと言ってしまうのは、どうなのでしょうか。

私の母は中国人です。母は、ニュースやバラエティ番組で、中国に対する批判などが流れるたびに、とても悲しそうな顔をします。当時小学生だった私は、なぜ母がそのような顔をするのかが分からず、一度だけ理由を聞いたことがあります。すると、母は私にこのような話をしてくれました。

「中国は人口が多いから、確かに悪い人もたくさんいる。でも、良い人だって、その分たくさんいる。日本には悪いニュースしか報道されないから、中国人は悪い人ばかりに見えてしまう。私はそれが悲しい。」私はその言葉に、はっとしました。私も多くの人と同じようにテレビの情報だけで、その国の人に悪い印象を持ち、判断してしまっていたのです。思い返してみれば、私は母の祖国である中国で、たくさんの優しい人に出会っていたのに。小学校六年生の夏、祖母が体調を崩したので、看病のために母と一緒に中国に帰りました。母が祖母の看病に付き添っている間、言葉の通じない私はどこにも行かず、毎日毎日部屋で宿題をして過ごしていました。そんな私を気遣って、いとこや叔母たちが私をいろいろなところへ連れて行ってくれました。広場や公園、屋台などへ連れて行ってもらううちに「凄く楽しい、中国に来て良かった」と思うようになりました。言葉が理解できなくても、私が寂しくないように接してくれるいとこたちの心に触れて、中国に嫌なイメージを作り上げていることが、おかしいことに気づくことができました。今までそのことに気づけなかったのは、私の心の中に中国に対する偏見があったからなのでしょう。いとこや叔母たちの優しさ、思いやりの心を私の勝手な先入観で否定し、無かったことにしてしまった。本当に、私の家族をはじめ、中国の方々にあやまらなければならないと思っています。このように偏ったイメージを持ってしまうと、なかなかその考え方を変えることはできなくなってしまいます。それを変えるためには、偏見に左右されない正しい目と心を持つことが大切だと思います。インターネットの情報だけに左右されないことはもちろん、相手の考えや思いをくみ取り、お互いに何ができるかを話し合える関係を築いていかなければなりません。これは外国人との関係だけでなく、誰もが幸せになれる社会への一歩だと思います。母はいつも明るくて、家に居ると とても楽しい気分になります。そんな母も、日本に来た最初の頃は、私が中国に行ったときと同じように、言葉や生活の違いに不安を感じていたのだろうと思います。けれど、母が日本に来てからのことで辛かったことなどを私には今まで聞いたことがありません。母は、誰に対しても心を開き、いつも笑顔で話しかけています。私自身も母が中国人であることを気にしたことはありませんでした。よくよく考えてみるとそれは、私たちの周りには、中国への偏見や差別が無かったからではないかと思います。困っている人がいれば、当たり前のように親切にする。そんな小さな優しさの連続の中で、一人の個人として、ありのままに受け入れられてきたのではないかと感じています。

今、日本には、様々な国から来た外国人がたくさんいます。その中には、良いイメージを持たれていない国もあるかもしれません。けれども、外国人への偏見を持って差別するのではなく、一人の人間として尊重し接することが、人と人とがより良い関係を築いていく上で大切なことだと思います。その心は、外国人との関係に限らず、すぐそばにいる友達、地域の人々など、身近な人を幸せにできることになるのです。そのために、まずは自分から。偏った情報から生まれる偏見や差別を見抜く目を養い、平等な心をもちたいと思います。互いに尊敬し合い、一人ひとりの笑顔を大切に。小さな優しさを胸に、これからも歩んで行こうと思います。



### 自分にできること

池田高等学校　二年
井川　夢愛

私が小学校低学年の頃、母が一冊の絵本を買ってきました。タイトルは「いのちはプレゼント」。十八トリソミーを患って産まれてきた凱晴くんと家族の心温まるノンフィクションの絵本です。

人間には、二個一組で二十三組の染色体があります。十八トリソミーとは十八番目の染色体の数が通常より一つ多く、一万人に一人の確率で起こる疾患です。元気に生まれてきても一歳まで生きられる可能性はたいへん低く、ほとんどの子が一歳までに亡くなってしまいます。お腹の中で亡くなってしまうこともある、とても重い疾患です。どうして母はこの絵本を買ってきたのか、当時の私は不思議でたまりませんでした。しかしこの絵本、この疾患は私たち家族にとってとても関係が深いものでした。

私が幼少の頃、初めての弟ができました。とても元気な声を上げて産まれてきてくれました。私はこの頃のことを今でも鮮明に覚えています。弟は産まれてすぐに別の病院へ運ばれました。十八トリソミーを患って産まれてきたからです。お腹の中で亡くなってしまう赤ちゃんもいる中で元気に産まれてきてくれた弟。今思えばそれだけで嬉しくてたまりません。弟はこの疾患の他にもたくさんの病気があったため、二回も手術を受けました。苦しくて痛かったはずなのに必死に耐えてくれました。私たちが病院に行くと、いつも元気な顔を見せてくれました。もうだめかもしれないと医者に告げられた次の日も元気な姿を見せてくれました。

でも、神様は意地悪で数日後、弟はお空のお星様になってしまいました。私たち家族にとっては早すぎる弟との別れでした。まだ私は幼かったので弟が亡くなったという実感はありませんでした。弟は静かに我が家に帰りました。今までＮＩＣＵに入っていてガラス越しの面会だけで抱っこもしたことがなかった私でしたが、その時、弟と隣で一緒に寝て抱っこができたことは私にとって初めてのことだったので少し嬉しかったのを覚えています。でも普通に話がしたかった。弟と生きる喜びを共に味わいたかった・・・。

こうして改めて命のことを考えると当たり前だと思って過ごしている一日一日が当たり前ではないということを実感します。著者は最後に、「入退院を繰り返し、いつも死の恐怖や緊張との背中合わせです。でも我が家は不幸ではありません。それどころか、家族みんなが凱晴から勇気や元気をもらい、また今まで知らなかったたくさんのことを知ることができ、今では凱晴の存在に本当に感謝しています。」と書かれています。母はこの絵本を通して「自分の命を大切にしなさい。いつか訪れるであろう未来より今を精一杯生きなさい。」と教えてくれたのかもしれません。

日本は二〇一一年三月十一日に東北地方太平洋沖で、二〇一六年四月十四日に熊本地方で恐ろしい大地震に遭いました。また、世界では無差別・残虐な武力行使によるテロ事件など凶悪な事件は未だに後を断ちません。これによりたくさんの大切な命が奪われてしまいました。生きてやりたい事がまだまだたくさんあったと思います。大切な家族のために頑張ってきたくても生きられなかった人もたくさんいるのです。

私たちがいつも通り過ごしている今日は誰かが生きられなかった今日かもしれません。その人たちのためにいっぱい笑っていっぱい友だちと話をして、一生懸命そして後悔しない今日を過ごすことが私たちにできることです。

今の自分の命は、遠い祖先から祖父母、父母、自分へと受け継がれてきたものであり、そうして受け継いだ命は未来に向かってつながっていきます。命は決して自分だけのものではなく、つながっているものです。だから命はかけがえのないものなのです。たった一人で生きているのではなく、周りの人たちと共に生きていく存在でなければなりません。

そしてこの命を大切にしていくためには、まず自分が自分らしく生きることが大事なのではないでしょうか。それは自分勝手に生きるということではなく自分の中に自信と責任を持って生きることです。かけがえのない自分、世界で唯一の自分であり、長所も短所も受け入れて生きていくことです。また、自分と他人の違いを認め、お互いに尊重し合い、愛し愛され生きていきたい。周りから大切にされていると感じることで、命もより一層輝くと思います。このことをたくさんの人に伝えていくことが自分にできることであり、使命なのです。

## 標語ポスター部門　知事賞

郡里小学校1年 林 天翔

木頭小学校2年 中西 華埜

北島北小学校4年 忠津 侑真

津乃峰小学校4年 関本 芽吹

上勝小学校6年 井岡 宗熙

太田小学校5年 鹿耳 大空

藍住中学校3年 吉田 千鶴

石井中学校3年 和田 碧依

みなと高等学園1年 岩佐 夏帆

城ノ内高等学校2年 橋本 いずみ

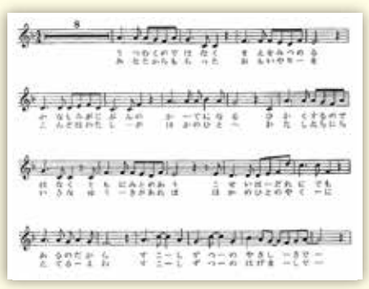
## 作詩作曲部門　知事賞

城東高等学校1年
作詩作曲／丸田 桃佳

### 笑顔

1. うつむくのではなく前を見つめる
悲しみが自分の糧になる
比較するのではなく共に認め合う
個性は誰にでもあるのだから
少しずつのやさしさで
多くの人を笑顔にさせる
笑顔の種まいたなら
心にほら花が咲くよ

2. あなたからもらった思いやりを
今度は私が他の人へ
私たちに小さな勇気があれば
他の人の役にたてるよね
少しずつのはげましで
見えない傷をうめていこう
笑顔の地図広げたなら
明日への夢が輝くよ



吉野川市立川島中学校3年
作詩作曲／大和 歩未

### Stay with you

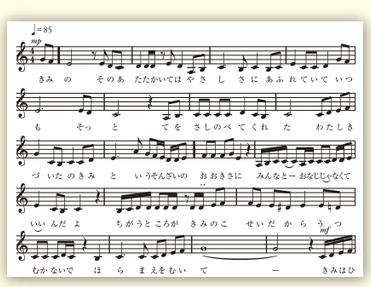
1. 君の その温かい手は 優しさにあふれていて
いつも そっと 手をさしのべてくれた
私 気づいたの 君という存在の大きさに
みんなと同じじゃなくていいんだよ
違うところが 君の個性だから
うつむかないで ほら 前を向いて

君はひとりじゃない いつでも私がいる
だから ひとりで悩まないで
私が 君の力になるから
君が涙を流すなら 私もいっしょに流すから
だから 絶対忘れないで 君はひとりじゃないからね

2. 君の その温かい目は 時々遠くを見つめて
どこか さみしそうに ぽつりと涙流してた
君のために 私 今何ができるのだろうか
そんな悲しい涙を流さないで
どんな悩みも すべて受け止めるから
泣いていないで ほら 笑っていて

君はひとりじゃない いつでも私がいる
だから ひとりで悩まないで
私が 君の力になるから
君が涙を流すなら 私もいっしょに流すから
だから 絶対忘れないで 君はひとりじゃないからね

うまく 言葉にできないけど
今 君に伝えるよ「ありがとう」



気軽に利用できるみんなのあいぽーと徳島です　**あいぽーと徳島**　徳島県立人権教育啓発推進センター　770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内tel.088-664-3719 fax.088-664-3727 http://www.aiport.jp
開館：午前10時から午後6時まで
休館：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）と年末年始